

自然は生命の基盤です。

しかし、かつてない速さで失われつつあります。

森林、水、生物多様性——私たちを支える基盤そのものが危機に瀕しています。

自然が危機に瀕すれば、私たちの未来も危うくなってしまいます。

しかし、テクノロジーがビジネスと自然の再接続を可能にしたら？

金融が再生の原動力となったら？

金融機関から見ると自然関連リスクは遠い存在のように思えるかもしれませんが、その影響は確かに現実として存在します。

地域社会や生態系、そして信頼にも影響を及ぼします。

生物多様性の消失は環境問題であるだけでなく、社会問題でもあります。

あらゆる意思決定に自然を組み込むという、新たな責任が生まれています。

Intesa Sanpaolo と NTT DATA は共同で、Biodiversity Engagement & Nature Observatory を創設しました。

施設管理に生物多様性を取り入れる先駆的な取り組みであり、

CSRD と EU Taxonomy に沿った行動を実現します。

各提言は科学、規制、測定可能な影響に基づいており、複雑な基準を実践的な行動に変換することで ESG の信頼性を強化し、自然に配慮した経済への移行を加速します。

戦略を具体的な成果に変えるため、生物多様性を身近なものにする 4 つの取り組みを設計しました。人々、地域社会、そして銀行のために。

最初は、都市生物多様性壁画です。

Airlite 塗料と QR コードでリンクされた教育コンテンツを用いて制作された、CO₂吸収アート作品。

その目的は、気候にプラスの効果をもたらしながら、都市・人・生態系の関係性を考える象徴的な入り口を創出し、市民の意識向上を促すことです。

次は、生物多様性・ESG 内部研修プログラムです。

プーリア州とカンパニア州で実施される 5 時間のモジュール式コース。従業員が生物多様性や地域の生態系、さらに管理における自らの役割を理解することを目的としています。

CSRD が求める文化的変革を支援し、人々が持続可能な変化の担い手となることを促進します。

学校連携プログラムは科学を教室に届けます。

4 つの中学校で実施される 12 回のセッションを通じ、生徒たちは生物多様性、持続可能性、アルタ・ムルジャ生態系などの地域生息地を探求します。

目的は、若い世代の環境意識を高め、再現可能な教育モデルを構築することです。

最後に、TNFD から着想を得た MVP および生物多様性報告書です。

LEAP フレームワークに基づくパイロット評価で、Intesa Sanpaolo の施設全体における依存関係、影響、エネルギー使用、土地利用、生態系サービスをマッピングします。

自然関連リスク監視のための拡張可能な手法を提供し、将来のグループ全体での開示の基盤を築きます。

これらの取り組みは、教育、地域社会との関わり、データ駆動型ガバナンスを結びつけ、生物多様性を行動へと転換します。

このプロジェクトは、組織内に持続可能性の意識と文化を構築します。

外部では、地域社会を支援、地域の生物多様性を改善、銀行とステークホルダー間の信頼を強化します。

NGO、大学、zeroCO₂などの組織との協力により、あらゆる行動が科学的に基づき、社会的に意義あるものであることを保証します。

このプロジェクトを可能にしているのは、NTT DATA が持つ技術とサステナビリティの専門知識という独自の融合です。

規制に関する知見と、ESG および生物多様性データを統合する先進的なデジタルプラットフォームを組み合わせています。

ベンチマークや規制への適合から、再現可能なエンゲージメントフレームワークの開発まで、複雑さを明確化に、データを意思決定へと転換します。

生物多様性ロードマップをデジタル ESG プラットフォームと統合し、報告を効率化するとともに長期モニタリングを促進します。

こうしてテクノロジーはコンプライアンスと現実世界の変革をつなぐ架け橋となります。

パイロット事業として始まったこの取り組みは、今後の方向性の手本となりつつあります。

2026 年までに、この観測システムは Intesa Sanpaolo の関連施設全てをカバーし、新たな金融機関への拡大を目指します。

2027 年までに、以下の測定可能な成果を実現します

500 万ユーロの収益、

10 の生物多様性プロジェクト、

そして自然関連影響を最大 20%削減。

なぜなら自然を守ることが、私たちの未来を守ることに繋がるからです。

Intesa Sanpaolo と NTT DATA は共に、サステナビリティの課題を再生の機会へと変革しています。

未来は今、始まります。